

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究職コースについては、学生を定着させ5年間で学位取得者を着実にする。	→研究職コース指導委員会のあり方を再度チェックし、指導状況の報告回数。	A	B	A	A	A
2. 専門学識コースについては、2年間で体系的かつ高度な専門知識を提供する。	→修士論文の成績評価および修士学位取得者としての就職状況。	B	B	B	B	B
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究職コース指導委員会からの指導状況報告は規定通り2ヶ月にごとに報告されている。学位取得の途中で、課程博士学力試験や公開による課程博士候補者試験によって、指導委員以外からも指導、レビューを受けている。2012年度には学位論文評価基準も明文化し、学位取得プロセス図とともにウェブサイトに掲載した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究職コースが設けられたのは2005年度であり、研究職コースへの入学者は3名と少数であるため、研究職コースに在籍して5年間で学位を取得した学生は1名のみである。専門学識コースから後期課程に進学した学生を含めると、5年間で学位を取得した学生は4名である。研究職コースへの入学者を増やすことと、5年間で学位を取得できる指導体制の一層の整備・充実が求められる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究職コースを含めて、商学研究科への進学指導と広報を強化するため、商学研究科紹介パンフレットの作成・配布、進学説明会の充実、広報手段の多様化について具体的な作業を進めている。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 専門学識コースでは2年間で体系的かつ高度な専門知識を提供するとともに、報告や討論などで思考力を身につけることに留意した授業が行われている。修士学位の授与については、複数の教員による論文審査・口頭試問を実施し、2011年度よりその評価を成績として明示している。修士論文の審査にあたっては審査委員会に専門分野外の副査を1名必ず入れることで透明性と公正性の向上を図っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2009年度から2013年度の修士論文の成績はすべて一定レベルを満たしていた。就職状況については、2009年のリーマン・ショック後の経済情勢を反映して、終了時に進路未定の学生がいた時期もあったが、おおむね順調である。修士学位取得者の中には公認会計士や税理士を目指し、就職せずに資格試験受験に専念する者などがあるため、就職状況の統計上は若干低く表示される。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か これまでの取り組みが一定の成果を上げているので、今後も着実に継続すること。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆